

# 我が家の食文化を見つめる授業

## —地域の食材を生かした行事食の実践を通して—

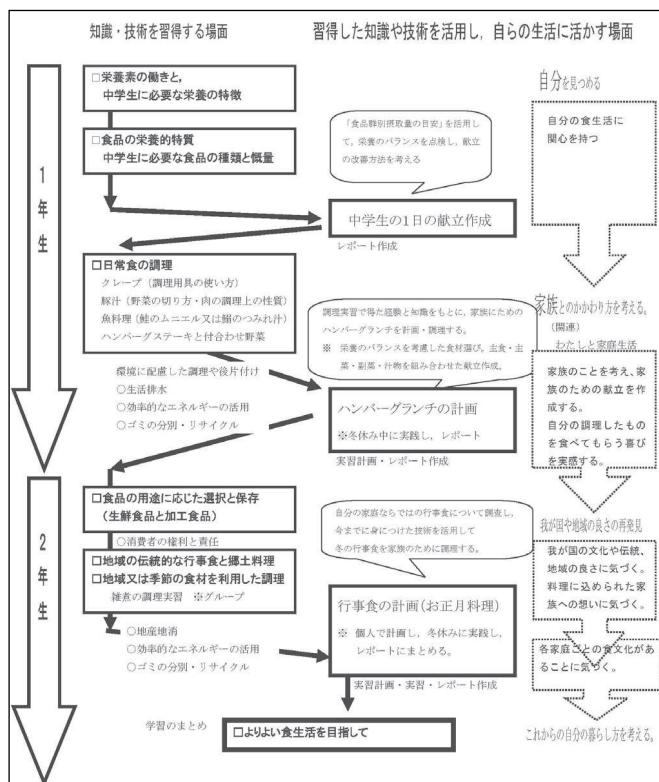
放課後も部活動や塾通いで毎日忙しい中学生。帰宅しても時間に追われて食事をとり、次の予定へ急ぐ。そんな毎日を過ごしている生徒は多い。また夜遅くまで仕事をこなして疲れて帰ってくる親と、時間を合わせて一緒に食事をとったり、ゆっくり会話をする余裕のない生徒もいる。

そんな生徒の実態から、行事食の学習を通して地域の食材や文化に触れさせるとともに、我が家 の食文化を見つめ直したり、家族とのコミュニケーションツールとしての食事の役割に気づかせたいと考え、実践を行った。

### 1. 研究の概要

「伝統と文化の尊重」という方針から、今回の学習指導要領改訂では今まで選択の扱いになっていた「地域の食材を生かした調理の工夫」をすべての生徒に履修させることになった。

図1「B 食生活と自立」指導の流れ



「A 家族・家庭と子どもの成長」(1)(2)を先に学習し、「B 食生活と自立」の学習でも家族の一員としての自分の役割や自分と家族とのかかわり方について考える場面を設定し、家族の一員であることを自覚する手立てとなるような展開を工夫した。

また、学習を通して得た知識や技能を活用して、課題を解決するために工夫し、創造できる能力と実践的な態度をいっそう重視する観点から「生活の課題と実践」に関する指導が盛り込まれた。

そこで、「B食生活と自立」の「生活の課題と実践」では雑煮の調査と調理実習を取りあげ、「我が家の食文化」に注目させるとともに、家族・家庭に関する学習と関連づける授業展開を工夫した。

指導計画作成では、自分を見つめるところから家族、地域へと視野を広げさせたり、本時と次時の学習内容を関連づけて授業に連続性を持たせるなどストーリー性のある系統的・発展的な指導計画を目指した。

また、「D身近な消費生活と環境」の内容と関連づけることで、家庭生活をより総合的にとらえた学習を開発し、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむことができるようとした。さらに言語活動の充実のために、調査や実習計画、実習の振り返りの段階では繰り返しレポート作成に取り組ませ、調べた内容や自分の活動計画、気づいたことなどを図や文章で表現し、自分の考えの確認や深化を促した。

### 2. 指導計画（「生活の課題と実践～行事食を調べよう～」）

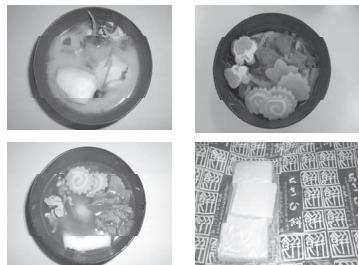
- 1 日本の行事食 (2時間)  
1年の行事、行事食カレンダーを作ろう
- 2 我が家の雑煮調べ (4時間)  
我が家の雑煮調査、実習計画、実習（グループ）
- 3 行事食を作ってみよう (冬休みの課題)

### 3. 授業実践

#### (1) 「我が家の雑煮比べ」(4時間)

北海道は先祖が全国各地から入植した歴史をもち、同じ地域に住んでいても、雑煮のだしや具はさまざまである。

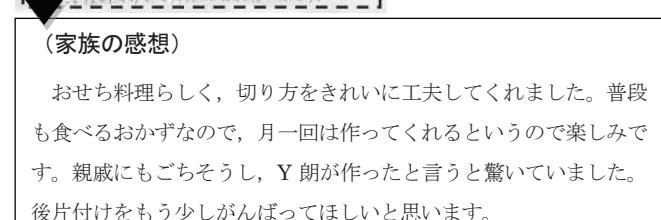
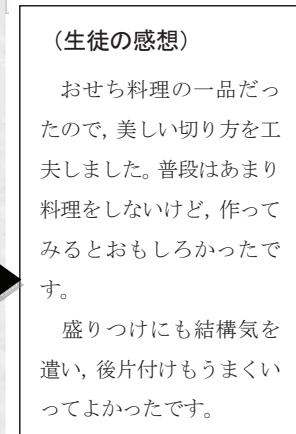
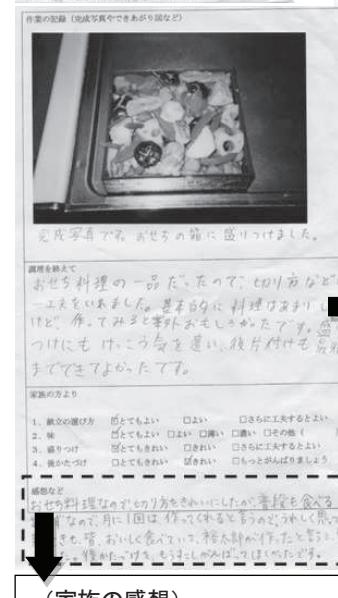
そこで、それぞれの家の雑煮の具材や作り方を調査し、食文化の比較を行った。さらに調査結果を生かして調理計画を立て、班ごとにいろいろな雑煮を調理し、試食した。地産地消の観点から、材料は地元産の醤油や酒、上川産の餅米を使った餅などを校区内の店から購入し使用した。各家庭の雑煮のよいところを生かした雑煮や、本を調べて食べたことのない地域の雑煮、ある家庭の雑煮を忠実に再現したものなどもあり、全国のお雑煮の具材と比較しながら、自分のルーツに興味をもった生徒もいた。



#### (生徒の感想)

- 自分の家では鶏のだしなのに、他の家では鰹のだしが多くてびっくりした。今回、我が家の大だしのお雑煮を作って食べて、おいしいと言つてもらえてよかったです。このだしはとるのに時間がかかるから、家で作って持つて来たけど、お母さんの手間と苦労がわかつた。
- 家によつていろいろな味で、具材もちがつておもしろかったです。
- うちは、お正月に雑煮を食べないから、初めて雑煮を食べた。
- 味噌味の雑煮の班があつて、それも食べてみたかったです。
- 旭川でも醤油や酒、米など、おいしいものが作られているとしました。
- おもちはいつも食べてゐるのとちがつた。おいしかった～。

#### (2) 「行事食を作つてみよう」(冬休みの課題)



#### 4. 終わりに

オリエンテーションで自分の食生活の問題点を考えさせると、多くの生徒は「栄養のバランスの悪さ」と答える。栄養素を取る以外にも食には大切な役割があることに気づいて欲しい。授業を通してさらにその思いを強くした。

学んだ知識や技能を生かして、家族のためにととのえた食事を一緒に食べ、「おいしかったよ」「また作つてね」という言葉に喜びを感じて欲しい。食べることを通して他者の思いを感じたり、自分の思いを伝える。人とつながる。その大切さを実感させる授業を目指して見直しを重ねていきたい。